

報道関係者各位

佐賀県 武雄市役所

武雄の大自然の中で生まれた作品、見に来ませんか？

「乳待坊 Art Camp Week 2022」成果発表展「Green back」

令和4年4月27日に締結した佐賀大学芸術地域デザイン学部と武雄市との連携協定に基づき、乳待坊公園いこいの広場キャンプ場にて、乳待坊 Art Camp Week 2022 成果発表展「Green back」が開催されます。

キャンプ場にて滞在制作を行なった若手アーティスト5名による作品発表展です。キャンプ場という里山の自然を拠点に、地域で感じた匂い、情景、すべてを作品から感じとれる作品展です。

日 時 : 令和4年10月8日(土)～10日(月・祝) 11:00～17:00

会 場 : 乳待坊公園いこいの広場キャンプ場 (入場無料)

内 容 : アーティストインレジデンス「乳待坊 Art Camp Week 2022」

● 乳待坊 Art Camp Week 2022 成果発表展「Green back」(現代美術展)
《招待作家》

江内田徹 2000年佐賀県出身 佐賀大学芸術地域デザイン学部4年在籍

遠藤梨夏 1998年福岡県出身 佐賀大学芸術地域デザイン学部4年在籍

酒井淳子 1999年福岡県出身 佐賀大学芸術地域デザイン学部4年在籍

馬渡理央 2000年長崎県出身 佐賀大学芸術地域デザイン学部4年在籍

山本千夏 2001年福岡県出身 佐賀大学芸術地域デザイン学部3年在籍

※ 詳細は別添のチラシをご覧ください。

— 本件に関するお問い合わせ先 —

武雄市総務部市民協働課 TEL 0954-23-9122

Green back

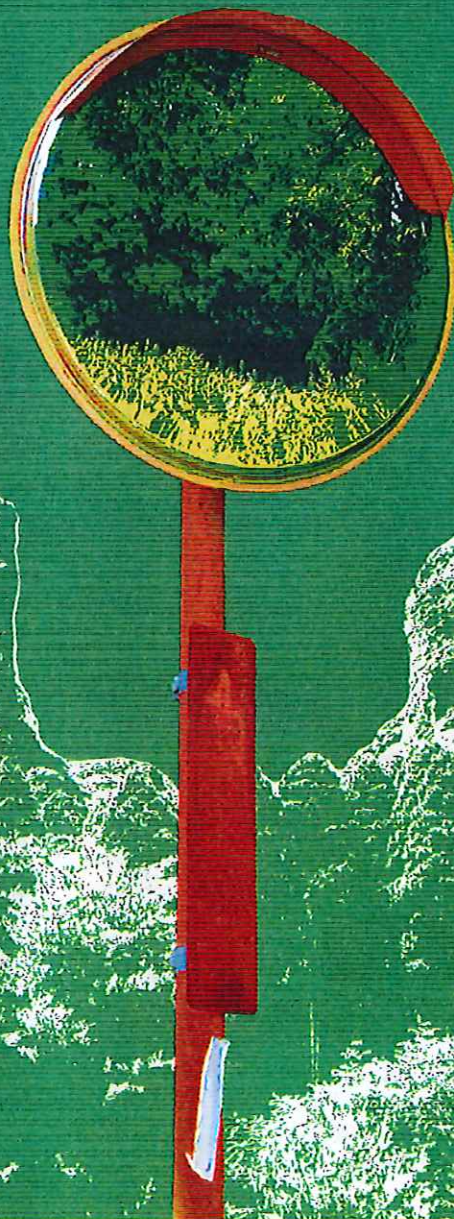
Green back

-Chimachibo Art Camp Week 2022-

2022 10/8 sat - 10/10 mon

11:00 ~ 17:00

Chimachibo Park Ikoino Hiroba Campsite



2022 10.8 [土] ~ 10.10 [祝・月]

乳待坊公園いこいの広場キャンプ場 入場無料

主催：株式会社ヒューテック

- 乳待坊 Art Camp Week 2022 -

Green back - 乳待坊 Art Camp Week 2022 - 2022年10月8日[土] - 10月10日[月・祝] 10:00-17:00 乳待坊公園いこいの広場キャンプ場

乳待坊公園いこいの広場キャンプ場にて
乳待坊 Art Camp Week 2022 成果発表展
『Green back』を開催いたします。

今年度、乳待坊いこいの広場キャンプ場では、
佐賀県で活動する若きアーティストを招待する
アート・イン・レジデンス「乳待坊 Art Camp
Week」を計画、その成果発表展として今回
キャンプ場にて滞在制作を行った若手アーティ
スト5名による作品発表が行われます。
彼らがキャンプ場という里山の自然を拠点に、
地域で感じた匂い、情景、すべてを
作品から感じていただければ幸いです。

開催期間中、ワークショップ実施予定

関連イベント

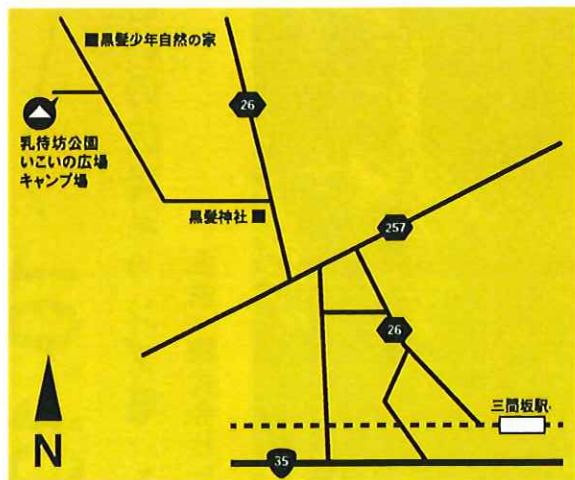
今石 康 LIVE in Chimachibow
10/8[土] (Start 17:30~)

場所: キャンプファイヤールーム



今石 康 (いまいし・やすし)

佐賀在住の音楽家。
2016年より佐賀・福岡の
ライブバー等で行われる
音楽ライブを中心に活動。
2021年ギター弾き語りによる
ミニアルバム「i.m.a」発表。



新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、
イベントの開催を中止させて頂く場合があります。
ご来場前に必ずホームページ・SNSにて開催の有無を
ご確認頂きますよう、よろしくお願いいたします。

乳待坊公園いこいの広場キャンプ場

〒849-2305

佐賀県武雄市山内町1864

TEL: 080-2157-0357(管理人直通)

HP: <https://chimachibow-camp.com>



ホームページ CHIMACHIBOW.CAMP



江内田 徹 EUCHIDA Toru

2000年 佐賀県生まれ。

主な個展として『なんか寝てない』(2022年、ノギ、佐賀)

主に映像や音声を用い、未だ一般概念と化していないモノ・現象・欲求・経験の共有を行うこと、それによる Chill を試んでいます。また、作品と鑑賞者が対面する場所や時間の違いによって、二者間に起きる関係性の変化を考察しています。いつもは家で YouTube を眺めています。



遠藤 梨夏 ENDO Rika

1998年 福岡県生まれ。

主なグループ展として『居場所について』(2022年、OVERGROUND、福岡)、『ツー・パウンズのワンパウンドめ』(2022年、ツー・パウンズ、佐賀)、『ドローイング展「u」』(2021年、佐賀大学美術館、佐賀)、『第62回総合展』(2020年、佐賀大学美術館、佐賀)。

主な個展として『にどあることは、さんどあった。』(2022年、IAF SHOP*、福岡)。

「日常・偶然・行為」をテーマに、気づきを拡張するような作品を制作している。日常の中に偶然転がり落ちている些細なものを拾い上げ、そこに少しだけ手を加えてイメージを大きく変容させる。ものが違えば拾い方も違し、手の加え方も変わってくる。私の作品は行為の痕跡である。ものと私の間に行為を介入させ、その痕跡は作品として姿を現す。



酒井 淳子 SAKAI Junko

1999年 福岡県生まれ。

主なグループ展として『ドローイング展「mi」』(2021年、佐賀大学芸術棟3号館、佐賀)、『ドローイング展「u」』(2021年、佐賀大学美術館、佐賀)、『グループ展』(2022年、ギャラリーシルクロ、佐賀)。

自己や他者、私の生きている環境に影響を受けながら制作しています。客観的主観に基づいて、現在地点を探しています。



馬渡 理央 MAWATARI Rio

2000年 長崎県生まれ。

主な個展として『あえん』(2022年、PERHAPS、佐賀)。

主なグループ展として『ツー・パウンズのワンパウンドめ』(2022年、ツー・パウンズ、佐賀)。

断定することが苦手だったりします。全てをすくあげて定義づけることは難しいと感じるからです。うやむやなものをうやむやなまま、曖昧なものを曖昧なままにしておきたいと思っています。だからこそ、自分の制作の軸を明確にせずにそのときそのときに関心があることを探求し、制作につなげています。



山本 千夏 YAMAMOTO Chinatsu

2001年 福岡県生まれ。

自分の中のなんでもない、とても大切な記憶からヒントを得ます。